

令和元年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・**最終**)

校番19 学校名 呉市立両城小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	・「確かな学力の向上」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」の経営目標は、児童に目標を持たせ、児童がふり返り、児童が改善に向き合うよう、適切な指標設定がされている。
目標達成のための方策の適切さ	A	・学校教育目標、経営理念、中学校区の二川教育プランと一貫性のある方策が立てられている。 ・「考える授業づくり」に共感する。授業参観して児童が力をつけていることがよくわかる。落ち着いて、じっくり考える授業が積み上げられている。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	・大変細かくていねいに分析されている。自己評価結果の要因についての課題を明確にしている。 ・タブレット活用と情報処理能力の向上を合わせて考えて、結果の分析がされている。この分析の方法はとても大切だと思う。
今後の改善策(案)の適切さ	A	・新しい学習指導要領に向けての準備がされている。現状をしっかりと把握した上で、教職員一体となってゆったりとした学校づくりをめざして努力されている。 ・「数学的な考え方」の個人差が大きいという問題点についての改善策をより具体化するとよい。
その他		・行事でのふれ合いだけでなく、日常的に異年齢のつながりが深まるよう、教室の配置を大きく変えられたこと(環境の改善)に感心した。 ・ドリーム、たんぽぽ学級の子どもたちが元気に活動し、発言し、いろいろ考えているようすをみて、とても安心した。担任との信頼関係ができていて、こころ解き放された生活の中で、望ましい成長がされていることは、喜ばしい。児童の成長は、学校全体のよき環境づくりによることは見逃せない。 ・保護者と児童の学校評価アンケートがほぼ同じことから、学校の教育について、保護者がよく理解していると考えられる。 ・学校教育への理解のひとつは学校だよりではないかと思う。両小の学校だよりは、大変わかりやすい。関心を持って読まれていると思う。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、各項目とも高い評価をいただいた。目標達成への取組について、全教職員で引き続き取り組んだことが評価されたものと思う。 ・現行の中期経営目標を設定して3年が経過した。ここまでの成果と課題をしっかりと分析し、新たな目標を設定したい。また、目標達成をするための方策をさらに焦点化し、職員で共通認識を行い、取組を進めていく。 ・学力面、生活面、体力面ともに児童の個別の課題や背景を十分把握し、保護者と連携した取組を今後も粘り強く継続する。
--------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------